

マネージメント情報

2009年5月



Total Herd Management Service

この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

マネージメント情報 2009年 5月

1. 上春別地区において授精業務サービスを開始します

すでにご承知のことと思いますが、下記のとおり当社として6月1日より授精業務を開始することとなりました。授精師は、JA 道東あさひ 上春別支所を退職いたしました、太田 智享 技師が、当たることとなります。太田技師は、未長く当地に留まりその生産性向上の一翼を担いたいという強い意志をもって、この新たな道を選択いたしました。当社としましても、この意志を尊重し、本授精業務を通して農協とも協力しつつ、そのサービスと技術を互いに切磋琢磨できるような関係を将来にわたり築き、もって上春別地区における授精業務の活性化と向上に寄与したいと考えています。

記

有) トータルハードマネージメントサービス

授精業務課 TEL: 0153-75-6591

携帯: 契約中

業務開始日 21年 6月 1日 予定

受付時間 AM 6:00 - PM 7:00

2. 酸性化乳のフリーアクセス哺乳

北欧で始まった哺乳牛乳に乳酸を添加してそれをフリーアクセス（いつでも飲める）させる哺乳方法が、北欧からヨーロッパそして、北米で静かなブームになっています。牛乳に乳酸（サイレージ添加用）を添加することによって牛乳は酸性化します。酸度は pH4.0-4.5 くらいになるように添加します。これによって、一般的な細菌（大腸菌など）やカビ類は生きていけなくなってしまいます。実際に乳酸を添加された牛乳から細菌やカビは、培養できなくなり、この効果が数日つづくことになるようです。

そこで、この無菌的（殺菌消毒された）な牛乳をいっぱい作って、好きなだけ飲ませようという試みです。牛乳事態が非常に衛生的かつ、殺菌的になっているためニップルや容器の中の衛生も保ちやすくなるため、グルー

プフィーディングに適したものになりますし、衛生的なものなので大量に飲んでも（本来、仔牛の牛乳摂取要求量はもっと高い）軟便にはなってもそれが下痢の原因になることはないわけです。

牛乳の60度30分の過熱殺菌と同じ様な意味を持っていますが、蟻酸添加牛乳はその後の無菌的な状態が長く持続することが特徴のようです。

ゲーターも様々ですが、一般的には下痢やその他の病気が少なく、フリーアクセスによって一日6-8Lくらいの摂取量となるため、その増体もよいということになっています。北米の獣医師や酪農家も最初はかなり懐疑的にみていたようですが、最近はそのがよいものであるという認識に変わり、じわじわと普及されてきているようです。また同時にその研究などの発表も増えてきて我々の目に触れる機会が増えてきました。その幾つかの報告の中から写真を掲載します。かなり良いもののように思えます。興味のある方は是非挑戦してほしいと思います。



写真1

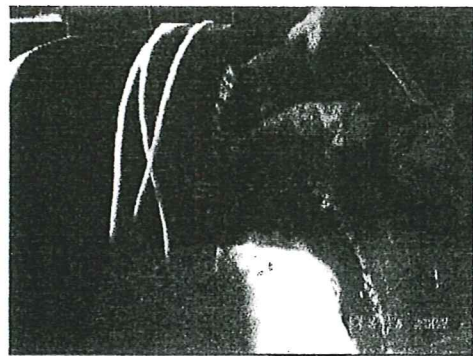


写真2

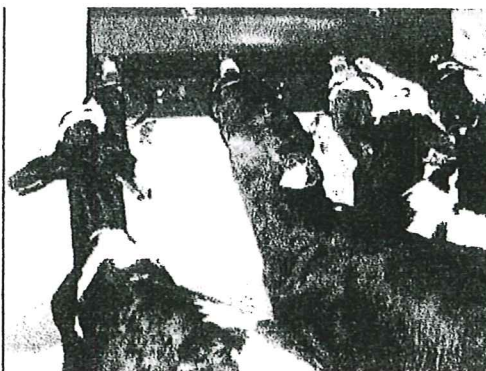


写真3

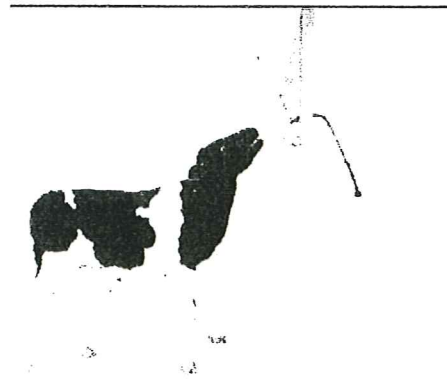


図1

これらは、グループフィーディングの写真ですが、個体への応用が十分可能です。写真2のように、時々かき混ぜなければ分離する欠点がありますが、牛乳を衛生的に省力化して飲み放題できる方法は魅力といえます。 黒崎

※ 人工授精について考える

先日、当社で人工授精業務を開始するにあたり、種雄牛の選定の話合いが行われました。生産者の希望(選定基準)は以下のようなことが選定基準になりました。

1. 受胎するというのが一番
2. 生産寿命が長い牛
四肢が丈夫、
乳房・乳頭の形状(搾乳性)
体細胞指数
3. 近親交配を避ける
4. 判別精液の利用

おそらくみなさんも同じようなことを考えられていると思いますが、実際に農場の牛群系統について把握している人はどのくらいいるのでしょうか？話しの中では規模が大きくなると少なく、昔は一頭一頭把握していたが、100頭を超えた頃から限界を感じてそこから先は人工授精師まかせという方が多いようでした。

人工授精師まかせまかせということは
授精時には立ち合わない(立ち合えない)
受精時の牛の状況(子宮・卵巣)がわからない
どんな精液を授精したのかわからない

↓

コミュニケーション(会話・意思疎通)不足

↓

受胎率の低下の一因？

大学先輩で釧路管内のJAの部長さんがいます。その先輩と先日お話しする機会があり、酪農(JAの業務)で一番大切なことは繁殖(人工授精業務)ということに、今になって気が付いたとっていました。そのJAは現在、授精師の増員・技術向上や繁殖管理業務について積極的に取り組みだしたということです。

酪農で生産に結びつくところは「牛」しかないのですから当然と言えば当然の考えですが……。みなさんも今一度この人工授精(繁殖)について考えてみて下さい。

- ・ 現在 THMS 顧客農場で3農場が自家授精を実施しています。また、H21年度の北海道での家畜人工授精講習会が6/5迄3週間にわたり清水町行われています。2農場(2名)の方が難関の受講前選抜審査をパスし人工授精師資格を取るべく奮闘されています。当社でも来月より人工授精業務を始めることになりましたが、JAが主体であった人工授精業務から開業授精所や自家受精を行う農場が今後増えていくことになるでしょう
- ・ 今年のオオジギの初鳴きは4/24(去年は4/23、一去年は2年続けて4/25)でした。本当に不思議な鳥です。毎年決まった時期に遙々オーストラリアからピンポイントで渡ってきます。因みにカッコウは5/6でした。